

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホーム燦燦とざわ)

事業所番号	0672500600		
法人名	株式会社 MSC		
事業所名	グループホーム燦燦とざわ		
所在地	山形県最上郡戸沢村大字津谷字鞭打野2096-1		
自己評価作成日	平成27年 11月 30日	開設年月日	平成 17年 3月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おひとりおひとりを知り、その方が持てる力を上手に発揮できるよう支援しています。利用者と会話することを何よりも大切に、個々が望む介護を目指して、利用者と職員の信頼関係づくりを心掛けています。その中で個別ケアに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者ひとり一人の要望を聞き、出来るだけ利用者の希望に合わせたケアを実践していくことを目標に取り組んでいる。外出も利用者が望む所への外出が出来るよう取り組まれ、利用者との信頼関係が深まりつつある。室内は天井が高く、窓が広くゆったりとした、落ち着いた雰囲気の中でそれぞれ思い思いの生活が楽しめる感じのする事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成 27年 12月 15日	評価結果決定日	平成28年 1月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		0	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員でつくり上げ、またいつでも理念を見て共有し、実践できるようホールに掲示しています。	事業所の理念「愛 燦燦」を基に個人目標を設定し、管理者との面談を行い、理念や目標の実践状況の確認を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は近所に散歩やドライブ、イベントに出かけ、積極的に地域へ出ています。その中で地域との交流が自然と生まれています。また、行事を通して地域の方々とのつながりを大切にしています。	町内会へは参加はしていない、が新年会や、夏祭りには地域の方が事業所へ訪問、地域のイベントにも参加し地域との交流を行っている。地域の方へのサポーター養成講座も1回実施。	地域の方との連携を深めるためにも、継続的にサポーター養成講座の開催を関係者との連携を取りながら進めていくことが期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	デイサービス事業を行うことで、地域の認知症ケアに貢献しています。グループホーム燦燦とざわを知っていただくことから、認知症の理解をしてもらえるよう努めています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では近況報告、地域の情報共有について話し合いを持っています。実際に顔を合わせることで、連携が強くなり、施設運営の方向性を明確にすることができています。	行政、地区長、民生委員、地域包括支援センター等の参加により2ヶ月に1回定期的に開催されている。事業所の報告や事業所からの徘徊に対する課題等 についての話し合いが行われた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の連絡調整会議、勉強会に参加して担当者の方と情報交換を行っています。また、こちらの運営推進会議等にも参加していただいています。	運営推進会議に参加している。、又地区の冊子(おまめ通信)への認知症関係の原稿依頼もある等行政との交流は良好になっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束しないケアを職員全員共通理解し、徹底しています。見守り重視の体制で職員全員で取り組んでいます。	特に研修は行っていないが、身体拘束については会議等で職員間で話し合いを行い、共通理解を図っている。徘徊に対して地域の協力で見守り、声掛けや連絡をもらえる関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は十分ではないと感じています。しかし、職員一人一人が利用者の状態観察に努め、心身の健康を見守っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての理解は不十分と感じています。今後、機会をつくり職員全体で学習して活用できるようにしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は重要事項を十分に説明し、また変更があった場合にはその都度家族、利用者へ説明と報告をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、また家族よりご意見等あった場合はその都度、職員全員で話し合いを行い、改善に努めています。	意見箱を設置している。面会時、夏祭り等の行事、ケアプラン作成時に家族からの意見を聞き、職員間で話し合いを持ち共有を図っている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングと毎月末に定例ミーティングを設けています。その中で出た意見は大切に、施設運営に活かしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に訪問し、現場の状況をよく見聞きすることで、職員の勤務実績の把握に努めています。そして、それを基にして給与などの改善へとつなげています。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が様々な研修へ参加できるよう機会を確保しており、ミーティング時に全体で報告勉強会を開いています。また、資格取得に向けても積極的に対策研修・試験への参加を勧めています。	今年度は内部研修が実施されていない。地区の特別養護老人ホームで行われる研修会に参加、又その他外部研修や、資格取得のための研修会への参加を行い、ミーティング時での報告会を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	包括の会議・研修会、グループホーム交換研修、最上連絡協議会、庄内連絡協議会に前向きに参加し、情報交換を有意義に行っています。	最上、庄内のグループホーム協議会に参加、交換実習にも参加している。利用者も含め他のグループホーム(燦燦ゆざ)への訪問も行うなどの交流も行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談にて不安なこと、希望することを詳細にお聞きしています。居心地がよくなるように良く話すことを大切にしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談にて家族の思いも、本人同様にしっかりと受け止め、家族関係の維持を念頭に置いて、お互いが良い方向に進んでいけるように努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中で何を必要としているのかをつかみ、他サービスとも十分に連携を図りながら対応しています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築き、受容と共感の姿勢を忘れず、日々の生活の中にある喜怒哀楽を共にし、本人のペースに合わせて支援しています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の交流を大切にし、また電話での報告も密に行っています。家族の考えをよくお聞きして、信頼関係を深め、一緒になって本人を支えていけるようにしています。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	幸いにも馴染み方の面会がありますので、その機会を大切にしています。また、馴染みの場所にも機会をつくり行けるように支援しています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごされる時間も大切にしていますが、できるだけフロアで皆様と過ごしていただけるように声掛けしています。職員が利用者みんなでお話できるような間に入り、不安な気持ちにならないよう配慮しています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取り、また訪問してお話を伺うことにしています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の思いをお聞きすることを大切にしています。時間をつくり、おひとりおひとりに関わる時間を大切にしています。	一人ひとりの意向、暮らし方の希望を家族を含めて、日常のコミュニケーションの中で把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネや家族より事前に情報をしっかりと得て、また本人より日常会話のなかでこれまでの暮らしをさりげなくお聞きし、情報収集しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日利用者の現状を注意深く観察し、記録しています。それを基にして職員全員が把握できるようミーティングを毎朝開いています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を第一、加えて職員の意見も反映させた介護計画の作成に取り組んでいます。特別に変化が生じた場合は随時、見直しや変更を行っています。	介護計画が実際の暮らしの支えになるために生活アセスメントがされて、関係者の意見も含め、職員全員で話し合い作成し月1回は見直ししている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別記録へ様子を記入して職員全員が把握できるようにしています。また毎月、介護計画の実践記録を作成して、項目をチェックしています。それを計画作成に役立てています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力により、定期的にボランティアを依頼したり、行事を企画したりしています。また、地域のイベントにも出掛けています。その中で地域との交流を図りながら豊かに暮らせるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に月に1回往診に来ていただいています。その都度一人一人の状態を診察していただき、指示を受けています。利用者、家族共に安心されています。	戸沢村診療所が協力医となっており月1回の往診が行われている。専門医には原則家族による対応となっているが状況報告を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師より来ていただいております。利用者の状況を報告し、日常の健康管理や支援を受けています。また特別に変化があった場合は、看護師と連絡を取り対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるよう、病院関係者との情報交換や相談に努めています。また、協力医療機関への連絡や相談を適切に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、ホームの方針を家族に伝えていきます。その際に、確認できるよう書面を作成しています。現在、終末期に向けたケアは実施していません。その際には、改めてその内容を話している状況です。	重度化したときの対応に関しては、重要事項説明書に記載し入所した時に説明、実際に重度化した時点では都度家族と確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングを通して応急手当や初期対応の勉強会をしています。さらに実践力を身に付けるために訓練を通して実践力を養っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、指導・助言をいただく機会をつくっています。夜間想定や火災訓練を行っています。	避難訓練は4月に1回目を実施、3月に消防署の参加で行う予定となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応を、職員が互いに見守り、気を付けるよう努めています。	ミーティングでの話し合いを行い、実際のケアの中で職員同士が気がついた時に注意をしあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを日常会話の中から汲み取り、個別ケアにおいてしたいことや食べたいものが食べられるように担当職員が中心となって実践しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切にし、日々の暮らしがその人らしいものになるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で好みの服を選んで着られるように支援しています。ご自分で決めることが難しい方には、声掛けしながら一緒に準備しています。散髪は本人の希望を大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者からも食材の下ごしらえや切り方、盛り付け等を一緒に行っていただいています。下膳や茶碗拭き等の片付けも積極的にしていただいています。	食材は業者コープに発注し、当日に材料を見て献立を決めている。下ごしらえや片づけに利用者も参加し誕生会の際は希望食、イベント時にはチラシ寿司や外食等の取組も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの状態に応じて食事を作り、毎食の食事量水分量をチェックして、健康管理の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個別にあった方法の口腔ケアの声掛けと誘導を実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間を見て定期的にトイレ誘導をきめ細かく実施しています。	排泄パターン表を使い、極力トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を基本としている。重度化が進んでいるがリハビリとパットでの対応を行っている。排便は3日無い時は服薬をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、水分補給、散歩、体操など身体を動かす働きかけを多く行い、健康に排泄できるように取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する曜日が決まっており、希望に合わせる事ができていません。しかし、利用者が気持ち良く入浴できていると感じています。ひとりひとりがその日ゆったりと入浴できています。	入浴は週に2~3回行われ、特に拒否する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝は各自のお部屋で休まれたり、皆のいるところを好む方はソファで休まれたりと様々です。また、夜は早めに休まれる方もいれば、ゆっくりホールで過ごしてから休まれえる方もいます。個々の希望にあった時間で休めるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の薬の説明書をファイルに綴じて職員全員が理解できるようにしています。服薬は毎食時に本人に手渡し、服用の確認まで実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割を大切にしています。洗濯物たみ、食器拭き、掃除、畑仕事など個々が力を発揮できるように様々なものを準備しています。また、レクや運動、散歩、ドライブなど利用者それぞれが楽しめることを企画するようにしています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は、散歩やドライブすることで気分転換していただいています。また、小旅行や個別ケアを計画して、普段は行けない場所へ行けるよう支援しています。本当に行きたい場所へ行けるようもっと力を入れていきたいです。	天気のよい時の散歩やドライブ、場合によっては外での日光浴等外へ出ることによる気分転換が図られている。利用者の症状に合わせ小旅行や、同一法人のグループホームへの訪問、家族の協力でお盆、お墓参りを行なっている。、又それぞれの利用者の希望をかなえる取組も検討している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方はご自分で持っただき、買い物を楽しまれています。管理できない方はこちらでお預かりして、外出時にご自分で選んでいただき、可能な限りお支払まで出来るように支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望通り電話できるように対応しています。手紙や年賀状のやりとりもできるよう支援しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く自然の陽がたくさん入り、風通しも良く、快適に過ごせる空間を提供しています。ホールや玄関には季節感を取り入れたものを飾り、目で見て楽しめるように工夫しています。また、過ごしやすいように清掃や整理整頓を徹底しています。	天井が高く、窓も大きくゆったりとした居間で、整理も行き届きのんびりとした時間を過ごせる空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席だけではなく、コタツやソファを置いて、それぞれが自由に過ごせるように配慮しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族のご協力により、各居室には利用者が使い慣れた物や好みの物を持って来ていただき、気分良く過ごしていただけるような工夫をしています。	利用者の馴染みのものが持ち込まれ、利用者が安心して過ごせるような取組が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置と廊下のバリアフリーを活用して、ご自分の力を活かして生活できるような介助をしています。また、各トイレや浴室等の場所表示を大きくして工夫しています。	/	/